

泉 /2014 194×130.2 ¥900000

Untitled /1993 260×130 ¥ 1000000

atg-05/2017/31×31/¥45000

atg-06/ 2017/31×31/¥45000

Untitled/1991/154×227/¥900000

刹那/2012/162×130/¥700000

atg-15/2017/31×31/¥45000

atg-14/2017/31×31/¥45000

atg17-09/2017 130×162 ¥700000

artists statement

カメラとは似て非なる、人間の視覚、それに意味を持たせる知覚の事をよく考えます。どうあがいてもカメラのようにフラットになれない人間には、そこには存在しないものを感じる、イリュージョンを持つ能力が備わっています。絵画や彫刻をはじめ、あらゆる表現はそこから生まれるべくして生まれたのだとおもいます。月に兎は居なくても、そこはクレーターだらけの荒涼とした風景だと知っていても、人は月の姿を楽しみ、ほんの少しだけその姿が大きく見える満月の日には、見えた、見えなかったなどと一喜一憂したりしてしまいます。布を織って作られたキャンバスに、顔料を練って作られた絵の具で描かれたものが、観覧者の心の中で形作られるものは、物質ではなくなり、平面に形作られた空間になり、世界になります。90年代に観た、コメディチックなSF映画「ギャラクシー・クエスト」は、技群の科学力と、並外れて真っ直ぐな心を持ちながらも、コピーしか出来ない異星人サーミアンを通して、「嘘」を楽しむ生き物であることが、人間の創造の鍵だという示唆に満ちた映画でした。私が描こうとしているのは光であり、空間のようなもので、それ以上の何かをイメージして描いているわけではないのですが、作品が自分の手を離れ、観覧者の中で広がっていく事が重要だと思っていますし、自分にとってモアートを含めた全ての表現は、ある種の体験をするための装置なのではないかと思っています。今回の展示は90年代から現在に至るまでの作品を展示します。変化している表現と、変わらない軸のようなものが浮かび上がってくる展覧会になればいいと思っています。

Untitled/1993/220×330/¥1,600,000

atg17-08/2017/130.3×194/¥900000

sound of blue/2015/194×130.3 /¥900000

scene #1/1998/180×100/ ¥700000

9612-1/1996/130×145/¥520000

untitled/1994/160×100/ ¥700000

Untitled/1995/160×260/¥1200000

untitled/ 1994 / 150×150/ ¥700000